

尾道市子どもの居場所事業に学生が参加

尾道市との地域戦略協働プロジェクト事業進捗報告書

人間福祉学科では尾道市と地域戦略協働プロジェクトとして、平成30年度より子どもの貧困対策の実効化に向けた取り組みを行っています。

平成28年度に「子どもの生活実態調査」を実施し、貧困世帯はそうでない世帯と比べて、さまざまな面において課題を抱えていることが明らかになりました。そこで、すべての子どもが生まれ育った環境に左右されることなく将来に夢と希望を持ち、成長できるための社会的措置を提言することを目指しています。

尾道市では市施策全体で子どもの貧困を考えようと、関係各課で構成されるプロジェクトチームがあります。このプロジェクトチームを発展させ、子どもの貧困対策を学校・教育委員会・地域・民間企業・子育て支援団体などのさまざまな機関との連携と協働により実施していくことがこの事業の目的です。

尾道市社会福祉協議会の「子どもの居場所づくり事業」に人間福祉学科3年生8名と一緒に参加。

- ① 尾道市から事業概要の説明と質疑応答
- ② 子どもの居場所事業に参加 絵本の読み聞かせ、ゲーム等で子どもと交流
- ③ 夕食を一緒に取る
- ④ 参加後に学生と一緒にワークショップを行い、子どもの居場所事業について、まとめた。



結果は①課題の多い子どもが参加しているのでより専門的なプログラムを導入してはどうか。②現在、参加する子どもはひとり親、生活保護世帯の子どもを軸に支援機関等で気になる子どもが参加しているので、支援が必要な子どもの放課後教室のような役割のほうが強い。貧困対策は予防が中心なので、今後、普遍的な住民発の居場所事業の展開が地域には必要と考えられることの知見を得た。

